キャラクター名: オーウェン・ウォーグレイヴ

プレイヤー名:

シンドローム	ノイマン ブラックドッグ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	生誕	衝動	殺戮	初期侵食率	39 %
出自	犯罪者の子	経験	脱走	邂逅	秘密

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	3			6
感覚	1	0	0			1
精神	4	0	0			4
社会	1	0	0			1

HP	36
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6	4	射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ヴィブロウィップ	白兵	6r+8	-	10		マイナーアクション使用で攻撃力+5
		0				
U100 屠殺 (John Doe/Jane Doe)	白兵	8r+8	-	15		［23］ 侵5
O100	白兵	14r+8	-	20		［23］

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
バトルマニューバ	
コネ：UGN幹部	
コネ：研究者	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
戦闘用人格	P	N		
『名探偵』	P 親近感	N 嫉妬		
ローザ・バスカヴィル	P 好奇心	N 食傷		
緒方レミ	P 有為	N 嫌気		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ハードワイヤード	5	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果：	ブラックドッグ専用アイテムを常備化							
C：ノイマン	2	2	メジャー	ー	ー	ー	ー	
効果：	C値-Lv（下限値７）							
コンバットシステム	1	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	<白兵>選択 ダイス+［Lv+1］							
ハイマニューバー	3	4	メジャー	武器	-	対決	リミット	
効果：	命中達成値+［Lv*5］ シーン1回							
勝利の女神	5	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	達成値+［Lv*3］ ラウンド1回							
完全演技	★	-	メジャー	至近	自信	自動	-	
効果：	他人の人格を完全に再現できる							
代謝制御	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	脳神経を完全にコントロールできる							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「――誰にも捕まえられないよ」

【イメージソング】
GHOST／まふまふ×nqrse

【詳細】
十年前、アメリカにおいて連続猟奇殺人事件を巻き起こし、『キングズベリー・ランの屠殺者の復活』と言われた殺人鬼張本人。
しかしたった一人の『名探偵』により犯罪は暴かれ、逮捕されることとなった。
犯行の残虐性と本人の凶暴性、そして所有するオーヴァードとしての能力から特別措置としてUGNアメリカ支部に軟禁されていた。UGNチルドレンとしてはその時に登録される。
あまりの不自由さと息苦しさに耐えかねた彼は自らの犯行の一切を知らない交代人格として『オーウェン・ウォーグレイヴ』を作り出し、それによってUGNの拘束を脱出することに成功。
その後紆余曲折を経てUGNN市支部へと赴任することになった。

現在、N市において普通の男子高校生として生活している。
『オーウェン・ウォーグレイヴ』が表に出ている状態は気弱でどこかおどおどとしている自信のなさげな人物。
『屠殺王』が表に出ている状態は気さくで常に微笑みを浮かべた自信に満ちている人物。
オーウェンは『屠殺王』のことは完全な戦闘用人格だと認識しており、『屠殺王』がしでかしたことの一切の記憶を所有していない。『屠殺王』にとって『オーウェン・ウォーグレイヴ』という男は都合のいい隠れ蓑にすぎない。

本名不明。『屠殺王』というのは人々によって付けられた俗称であり畏怖の冠。
仮初の自由を謳歌するために、合法で他人を殺害するために、彼は今日も『イト』を振るう。